

とよおかコンサート 諏訪交響楽団演奏会



10月2日 豊丘中学校体育館



第 668 号
発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(10月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,364人
女 3,452人
総人口 6,816人
世帯数 2,132戸

村と教育委員会では、明日の地域を担う人材を育成しようと「わかものスキルアップセミナー」を七月から毎月一回交流学习センターで開講している。講師は、村内の起業家や人材コンサルタントで、受講者は村内在住者や村内企業に勤める概ね三十五歳までの社会人二十一名。九月の講座では、河野地蔵道の育種家昼神活由氏が講演した。

聞いて学んで
スキルアップ
飯伊森林組合
市村文香

私は、豊丘村で開催されている「わかものスキルアップセミナー」に参加しています。このセミナーでは、村内の起業家の方のお話をお聞きしたり、人材開発コンサルタントの方と参加者と共にコミュニケーション

「知っている」と「知っている」は異なること、自信は自分を信じることから始まることなど自分では目から鱗の内容でした。

残り数回のセミナーも含め、他の参加者の方とも意見交換をしながら、学んだことを社会や日常生活で生かしていきたいと思います。
(桐崎長一)



第3回セミナーで昼神氏の話しを聞く会員達

スキルアップセミナー行われる

チャレンジする若者を応援

3者の夢の共演に

会場酔いしれる

平成二十八年度の文化事業「諏訪交響楽団演奏会」が十月二日に豊丘中学校で開かれた。
諏訪交響楽団は大正十四年に発足した日本で最も長い歴史をもつアマチュア交響楽団で、その演奏力には定評がある。
今回は、とよおかウインドアンサンブル・豊丘中学校吹奏楽部との共演もあり、百名が奏でる音色が多くの聴衆を魅了した。

とよおかコンサート
を終わって
とよおかウインド
アンサンブル
富永麻由美

共演を上達する
チャンスに
豊丘中学校三年
山本愛奈

十月というのにまるで夏のような暑い一日で、奏者もスタッフも、そしてお客様も汗だくで、ある意味とても印象に残る演奏会でした。
三団体が合同演奏したホ

ルストの「吹奏楽のための第一組曲」。元々は吹奏楽の為に作られた曲に弦楽器が加わり、管楽器だけの時とはまた違った響きになお一層音楽が色づいていくそんな感じがしました。
本格的なオーケストラの演奏を聞く機会になかなか恵まれない下伊那で、このような演奏会が開催され、またそこに準備の段階から関わらせて頂く事が出来、とても楽しい時間を過ごさせていただいた事に感謝するとともに、今後もこのような企画が継続して開催されたいと願います。

私たち三年生は、この豊丘コンサートがラストステージでした。演奏会本番は、演奏をやり切った達成感と、もっと演奏したいという少し寂しい気持ちがまじっていました。いつもより緊張

しました。私たちが音楽をしつかりとお客様に届けることができ良かったです。



楽しい演奏にパフォーマンスも

段丘

テロ及びジカ熱が懸念され、厳重な警戒の中で開催されたリオデジャネイロのオリンピック、パラリンピックが世界中に大きな感動と興奮を与えてくれ無事に終了した（後者の自転車競技中に事故が起こったのは残念であったが）。

オリンピック種目は日頃慣れ親しんでいるものがほとんどであるが、パラリンピックはそうではなく、新鮮であった。特に車いすラグビーは、車いす同士がぶつかり合うその迫力に圧倒された。またボッチャ（地上のカーリングと呼ばれる）での研ぎ澄まされた頭脳プレー、陸上競技では義足の性能の活用があるとは言え、健常者を上回るほどの記録を生み出す走り幅跳びの豪快さ、水泳競技では強力な推進力を生み出す鍛え抜かれた腕力・脚力の凄さ等、オリンピックとは異なる、いやそれ以上に伝わってくる選手の真剣さ、懸命さに胸を打たれた。

四年に一度の晴れの舞台に立つために、その境遇に立ち向かい、多くの試練を乗り越え、忍耐強く努力を続け鍛錬してきたことに本当に頭が下がった。目標を設定しそれに向かって継続的に努力することを、自身の教訓とした。

リニアの声

第5回

地域の資産となる 取組み・対処を

上佐原
小池 光好

私は、平成二十七年三月まで東京都小金井市に住んでおりました。リニア中央新幹線のルートが現ルートに決まり、飯田に駅ができることが公表されたときは、これで南信州にも日が当たると心躍らされました。

母が車椅子生活となり、特養喬木荘にお世話になった数年前からは叶わず、今から思えば本当に貴重で幸せなひとときでした。渋滞がなければ東京から片道三時間半程で往来でき、中央自動車道という都市間高速移動の恩恵を受けたものと思っています。

私は、帰郷の前の二十年余の間、金歸月来、ほぼ毎週帰っていました。帰省のときは、母と語らい食事をし、時には買い物や、きのこ採りにも行きましたが、

の人・物の流れが増加します。これをチャンスと捉え、その特性・効用を活かすことが大事だと思っています。

私は、帰郷の前の二十年余の間、金歸月来、ほぼ毎週帰っていました。帰省のときは、母と語らい食事をし、時には買い物や、きのこ採りにも行きましたが、

リニアの関連では、上佐原地区に中部電力の変電所が計画されています。どこかに必要な建造物とは言え、人の暮らしが第一です。景觀にも配慮が必要です。このような観点で動向を注視していきたいと思っています。

私は、帰郷の前の二十年余の間、金歸月来、ほぼ毎週帰っていました。帰省のときは、母と語らい食事をし、時には買い物や、きのこ採りにも行きましたが、

リニアの関連では、上佐原地区に中部電力の変電所が計画されています。どこかに必要な建造物とは言え、人の暮らしが第一です。景觀にも配慮が必要です。このような観点で動向を注視していきたいと思っています。

私は、帰郷の前の二十年余の間、金歸月来、ほぼ毎週帰っていました。帰省のときは、母と語らい食事をし、時には買い物や、きのこ採りにも行きましたが、

リニアの関連では、上佐原地区に中部電力の変電所が計画されています。どこかに必要な建造物とは言え、人の暮らしが第一です。景觀にも配慮が必要です。このような観点で動向を注視していきたいと思っています。

また、経緯等を後世に伝えていくことが現役世代の責任と考えています。



佐原大宮神社から望む伊那谷

シリーズ 元気な高齢者²⁶

大満沢で培った現在の幸福

酒井 義人さん
九十歳

みほ子さん
九十歳

御夫妻 北村在住

一学年違いのお二人。義人さんは大正十五年に、八人きょうだいの三男として佐原で、みほ子さんは同じく十五年に八人きょうだいの次女として高森町吉田で、共に農家の子として生まれた。義人さんは、小学校高等科を経て青年学校を卒業、徴兵検査に合格し海軍に配属され、浜名湖で訓練を受けたが、幸いにもそこで終戦となり戦地に赴くことはなかった。帰郷後は営林署で働き始め、しばらくして近所に暮らす十軒の方々と一緒に大満沢（長沢の奥）に

入植、主に牛を飼育しての生活であった。みほ子さんは小学校を卒業しすぐに天龍社へ就職した。当時五百人ほどの社員で、ほとんどが女性であった。自宅から近かったが慣例に従い宿舎に入った。同年代の人が多かったため寂しさを感じることも無く、楽しい青春時代であった。昭和二十六年に二人は親の勧めで結婚。既に義人さんは大満沢に居たので、同所での新婚生活となった。みほ子さんにとっては、賑やかな場所での独身時代と違って、山深い場所での生活となり、一抹の不安を感じながらの船出であった。



平和をかみしめるお二人

り、犠牲者は急増する。まして核兵器を多数の国々が保有するとすれば、ボタン一つで何百万という人間が瞬時に消えるのである。恐ろしいことである。相手より先にボタンを押せば解決するという問題ではない。

そんな暮らしが十年程続いたところに、三六災害が発生、状況が一変した。耕地が瓦礫と化し生活継続が困難となり、現在地の北村へ移った。義人さんは運輸関係の会社以身を置きながら、職業訓練所に通いブロック積み技術の習得し、建設会社へ就職。約十年間働いた後、金山工業に移り発電所に設置する機器運搬の仕事に携わった。この間多くの発電所に出向き、活況に満ちた戦後日本の状態を、身をもって感じられた。

その間、みほ子さんは神稲の製糸工場、金属加工所に約十五年勤める等、内助の功を果たした。

文責 桐崎 長一
宮下 正弘

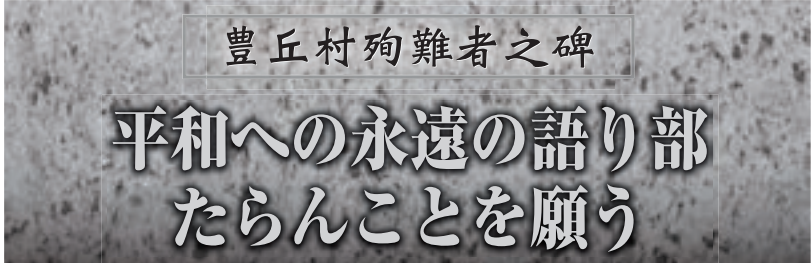
殉難者之碑を見て

南市場

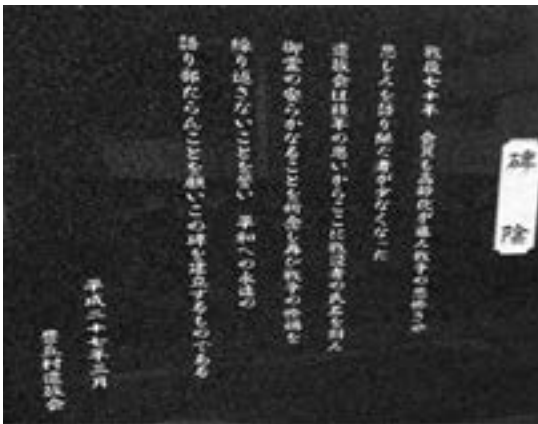
日下部 富次

旧豊丘村役場敷地内に「豊丘村殉難者之碑」が建っている。その殉難者の数は次の通りであった。
日清戦争
（1894～1895）
四名

日露戦争
（1904～1905）
十七名
日中・太平洋戦争
（1932～1945）
二百六十八名



重みを刻んだ289名



この三つの戦争で現豊丘村の方々と、兵役に就いて犠牲になった方々が二百八十九名となっているのだ。第一次大戦や満州事変などの戦いで亡くなっている方々はもういないのだ。驚いたのは、時代が進むに従って犠牲者が急増していることだ。この山の中の平和なはずの小さな村の、将来ある若者の犠牲者がた。戦争を有利にする為に尊い血税を、武器弾薬を作る為に、更に殺傷力を強める為に使った結果だ。しかもこの数字は軍人のみで、多くの民間人は含まれていない。更に人口密集地や軍需工場などがあつた地域では民間人の死者はいかほどか。

国策として満蒙開拓などで外国へ渡った人達のことなど考えれば恐ろしい。日清、日露戦争では日本国民間の犠牲者は少ないが、清国や満州など相手国では莫大な被害を被っているはずだ。それが日中、太平洋戦争になると、沖縄、東京大空襲、広島、長崎への原爆、ソ連の侵攻による満州、日本各地への空襲等々考えれば、計り知れない数字になる。こうして歴史の上に立つて「平和と日本」を誓った憲法を、「戦争の出来る国」へと解釈の変更をし、更に憲法の本文を変える動きが急速に進んでいる。殉難者之碑の数字が物語っている通

り、犠牲者は急増する。まして核兵器を多数の国々が保有するとすれば、ボタン一つで何百万という人間が瞬時に消えるのである。恐ろしいことである。相手より先にボタンを押せば解決するという問題ではない。人類の歴史は戦争の歴史だ。部族が互いに争って強者が支配し、更に争って国家を作り現代社会を築いたのである。しかし今度大規模な戦争が起これば人類はほぼ滅亡するであろう。どんな理由があっても戦争をしてはいけないのだ。歴史が示すように至難な業だが、外交努力で何とか阻止しなくてはならないのだ。

その間、みほ子さんは神稲の製糸工場、金属加工所に約十五年勤める等、内助の功を果たした。

辛いながら強い絆で結

鉄道全国旅歩き

第4回 北の大地 その二

北市場三 山本義彦



神秘の湖摩周湖をあとに、今度は阿寒湖へと歩を進めるも、鉄道が無いためバスの旅。原始林の中を切り開いた阿寒横断道路（未舗装）を四時間半かけて阿寒湖温泉に。鉄道の有り難さが分かり、宿に連泊する。

翌朝遊覧船で千古の伝説を秘めたマリモを見る事に、二十分ほどで群生地へ。運よく肉眼で湖に小石を数き詰めたように沈む大小無数のマリモの生体を見ることが出来た。雄阿寒岳の秀麗な姿を映した阿寒湖とも別れ一路釧路へと向かう。その後、また三時間のバスの旅、少しまどろんで居る内に釧路駅前着。

「さいはての駅に下り立ち雪あかりさみしき町にあゆみ入りにき、啄木」
三夜行だったのが、今度は三連泊となる。また安い

宿をさがさなければ。明治の末までは啄木の歌のおとりだった様だが、私が訪れた当時は北洋漁業の基地や阿寒国立公園の玄関口として活気に満ちあふれていた。しかし霧の町といわれるように年間を通じて晴れる日は少ないようで、次の日も同様であつた。

三日ぶりに汽車で最東端の根室へ向かうと、根室駅の待合室でストーブに火が入っているのにはびっくりした。七月なのに。寒さのせいもあるか淋しい



当時の釧路駅ホーム

ここで一泊の予定を変更し、戻ること。根室発の列車は釧路から夜行急行になるので乗客も多くなり見送る人達もホームにいっぱいいた。発車十分前に三浦洗一の「釧路の駅でさようなら」の曲が流れて最果ての地を離れる旅人の胸に迫るものがあつた。やがて列車のベルに促されるように霧の町釧路駅のホームを静かに滑り出て行くのだった。

帯広に着いたのが午後十一時半過ぎ、釧路より三時間ほど、今は都市の駅前はまだ明るいが、昭和三十一年代はまだ暗く、商人宿（今のビジネスホテル）を探して前金で金五百円也を払い宿泊した。前金は初めてで、現在のホテルの先駆けか。朝早く宿を出て駅に荷物を預けた。（当時まだコインロッカーなど無く、駅員の駐在する駅には手荷物一時預かり所が在り旅行者の便宜を図っていた。利用料はいくらだったか記憶に無い）

街に出ると、驚くことにワシントン市を真似て作つたそうで外国にでも来たような錯覚を覚え、十勝の大平原にどかっと座つたこの都市は豊かに見えた。駅に戻り荷物を受け取り、広尾線（今は廃線）のディーゼルで二時間、広尾からバスで襟裳岬へ。日高山脈の岩壁の縁を切り開いた十勝と日高を結ぶ唯一の道路で昭和初期に巨額を投じて建設したので黄金道路と名づけたと、車掌（当時バスには乗務していた）は説明していた。名ばかりの未舗装道路を一路襟裳岬へ。第五回へ続く。

お知らせ

文化祭作品展とよちがまつり

文化祭作品展

日時

十一月六日（日）

～十三日（日）

午前八時三十分

～午後九時三十分

※但し、九日は午後五時まで、十三日は午後三時まで

場所

交流学習センターゆめあて

◎公民館登録グループや村民の方々が制作した写真・絵・盆栽・人形・木彫り等を展示します。

ステージ発表

日時

十一月十二日（土）十三日（日）

午前十時

～午後三時（予定）

場所

とよおかまつり特設ステージ
交流学習センターゆめあて
◎今年は、ステージ発表を、とよおかまつり特設ステージとゆめあて大ホールの両方で開催します。出演時間等詳しくは、とよおかまつりパンフレットをご覧ください。

公民館登録グループ活動紹介 第3回

「心と体の元気体操」

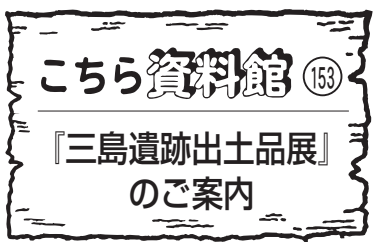
パッション体操クラブ 代表 大原千賀子

当初は福祉センターの二階での練習でしたが、会場が取れずに保健センターの二階を使わせて頂き「ゆめあて」が出来てからはホールと研修室を交代で借りています。演歌が多いですが先生が振り付けて、教えてくださり、敬老会、とよおかまつりで発表しています。年間三、四



トラクターには沢山の笑顔と元気を頂いており感謝です。現在クラブ員は十四名で会員になって頂ける方お待ちしています。
今年も敬老会、とよおかまつりには出演しますので、皆さまの応援お願いします。

資料館特別展『三島遺跡出土品展』を十一月二十二日（火）～二十七日（日）に「ゆめあて」で開催します。



河野地蔵道三島遺跡の発掘から二年半が経ちましたが、土器の修復作業や調査のまとめが一段落し、皆さんにその成果を発表できる段階となりました。
今までも「有孔罎付土器」や「墨書土器」等、出土品の一部についてこのコーナーで紹介してきましたが、それ以外にも、今回の発掘では現在の私たちに直接つながる新たな発見がいくつかありました。きつと満足いただける展覧会になる

と思います。また、同時に北垣外遺跡の「獣面把手」や伴野原遺跡の「種実圧痕土器」の展示も行います。是非この機会に実物と向かい合い、古代の豊丘に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。
尚、二十三日（水・勤労感謝の日）午後二時より、発掘責任者の酒井幸則先生の講演があります。今回の発掘の成果やそこから想像されることについてロマンあふれるお話が聞けるものと

（資料館主任 唐澤武彦）



荒川岳開山 ②
グヒン様

武田 次郎

（前回まで：堀越の堀本丈吉さんは犬とともに前人未踏の荒川岳山頂を目指した。途中で鳥のような生き物に出会い、登頂することができた。）

そしてもと来た道を、道しるべを頼りに下山しました。下山の時も登るときと同じように案内されてきま

とよちがまつり 100年前 ⑫

『豊丘村民話集』より

したが、その生き物が途中で立ち止まって言うこと「我こそは何を隠そう荒川大神のお使いでグヒンなるものである。今回の企て、至極神妙の至りである。今まで案内してきたが、これから先は道しるべに頼って下山するがよい」と言ったかと思ったら、パツと消えてしまいました。
ああ、ありがたや、やっぱりそうであったのかと荒川大神の方を向いて手を合わせて、恭しくお礼を申しま

した。
無事に家に帰ってみると、家中の人たちは茶を断ち塩を断って精進し、白装束の姿で道中の無事を祈りながら三峰神社におこもりして待っていました。荒川岳開山の様子をこまこま話し、グヒン様に案内されたこと



荒川岳（前岳）

を話した時には一同、手を取り合って喜びました。（編集部注 この話は堀本家に伝わる話とは異なる部分があります。次号より堀本家に伝わる話を掲載します。）
（豊丘村民話集・第壹輯（昭和五十二年）より）
文責 壬生雅穂

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.156

アメリカザリガニ
（ザリガニ科）



外来生物即悪者。でも、そこには人間の身勝手さがあるのだが。アメリカザリガニは典型的な雑食性。強大なはさみを使って。しかし、もともと食用のウシガエル（これ又、外来生物）の餌として一九三〇年代に北アメリカから移入されてきた。稚エビの間は魚や水生昆虫の餌

になるのだから、ウシガエルの餌、納得。話をトンボに変える。今年にはトンボ一本にしぼったのだが、思うような成果がない。ところが今月に入ってから思いもよらない情報が入ってきた。マルタン・ヤン・マとマダラン・ヤン・マがいるというのだ。そして、十月四日、捕獲することはできなかったが、確かにいる。目の前にいる。確認できたのだ。

（山田 栢）

中学校では、九月二十四日・二十五日に開催した第四十六回輝丘祭に、アルミ壁画を制作した。中学校と、村民との繋がりを大切にしたいと考え、村内各所に収集ボックスを設置したところ、目標をはるかに上回る約一万个のアルミ缶が集まった。開会式にアルミ缶壁画が披露されると、生徒たちからは大きな拍手が沸き起こった。

ご協力 ありがとう
ございました。



色を組合せて作った「繫」の文字



親子の短歌で絆を深める
おやもりうた
親守詩コンクールで入賞

- ▼親守詩長野県南信大会実行委員長賞
豊丘南小学校六年 唐澤優衣さん
（子）世界一 私が好きな 母の味
（親）幸せくれる 娘のために
- ▼高橋史朗特別賞
豊丘北小学校五年 唐沢 漣くん
（子）素直には 行動できない 反抗期
（親）母は楽しみ 成長の証

親子のキャッチボール短歌のことで、明星大学特別教授の高橋史朗氏の提唱により、取組みは全国各地へ拡大しています。今年で三回目となった南信大会には、小学校や保育園などから約三六〇首が寄せられ、豊丘南小学校六年の唐澤優衣さんの作品がみごと実行委員長賞に輝きました。また、高橋史朗特別賞に、豊丘北小学校五年の唐沢漣君の作品が選ばれました。

子が親を思つて詩を作り、親が子を思つて返歌する。お互いのことを思いながら作る詩は、親子の絆を改めて強くするのではないのでしょうか。どれも、本当にほのぼのとして、心があたたかくなる作品ばかりです。

館報では来月号から入賞作品を紹介していきます。
（豊丘村教育長 寺沢宜勝）

壮年ソフトボール
豊丘48オールスターズ
全国大会で大健闘

長野県壮年ソフトボール大会で優勝した豊丘48オールスターズが、九月二十四日に秋田県で開かれた全国大会に出場しました。本紙八月号で、「長野県の代表として、豊丘の名も背負って

二回戦（初戦）
豊丘48オールスターズ
25－6
本荘愛球会（秋田）

三回戦
豊丘48オールスターズ
3－6
戸出マstars（富山）



俳句 短歌

花木槿なでしこ一日の命今を咲く
稲の花田に立ちて足るわが余生
秋簾の六腑に染みる旅の空
筆柿のたわわにみのり兄思う
庭先にいのち群がる花若荷
氣に入りの花に行き来す秋の蝶
仲秋の段丘冴える夜影かな
鶏頭の丈の不揃えよしと見ゆ
妻の留守厨に盛る花若荷
天竜川の風おさまりて大根時く
集落の栄枯盛衰蕎麦の花
鳥去るや野分が捨てし月の鎌

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子

福澤貴美恵
大原真由美
筒井 恵子
松尾ヒサコ
松下 泰見
富永 博道

授稿 俳句

夕ばえに舞うは名歌の赤とんぼ 中部三 鎌倉 美登里

川柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「走」 福沢勝美 選
御馳走はイモ煮ころがし座が和む 林 桃子
風走り光る日本のバトン技 原 美風
泣き笑い走り続けて八十路入り 西元 峯子
軸吟：振り返りや九十年の走馬灯

▼課題「老」 互 選
捨てられぬ畑守る老いまっしぐら 安田 喜子
老いてから波風立てぬ智恵が湧く 久保ひろし
老人がカモになつて年金日 小澤 凜
七十の老も気持ちは青春期 桃沢 健介
▼自由吟 桃沢健介 選
祭り旗豊作の喜を分かち合い 福沢 勝美
世を恐れぬニュース流れて顔しめ 吉川 燎
老いの身も畑に立てば元氣出る 市沢 照子
軸吟：豊洲市場地下空間に棲む魔物

（八日会）

ほん年の最後の茄子を御所望のおやきを作る秋雨の午後
窓少し明けて闇より入りくるほのかな冷気が眠気をさそう
若き日のザ・ビーナツの歌聴けり情熱の花は散ってしまった
庭の池キン鮒五尾捕らる青鷺かいたちか綱張りをする
猛暑ゆえ「道中お大事に」と声をかけ孫らと墓に送り火を焚く
松島 八重

（あしたば短歌会）

テレビにて台風の傷跡見るたびに穏やかなこの地の幸せ思う
壬生 千春
真夜中の就業終えて孫帰る車のライト出窓に光る
大倉 知江
南天の草採り終えて一休み晩秋の赤き房実浮かべて
久保田 妙
孫たちの夏が終わった庭先を安堵したかにオニヤンマ飛ぶ
北澤 秀子
向日葵はゴッホのモチーフ大輪が力瘤もち夏空を向く
毛涯百合子
リオ五輪の喧噪よそに京の北貴船川床にしばし身を置く
福澤 亀人